

早稲田アカデミー	6年											
	算数											
学習内容	夏期講習 (SS) 割合と比 平面図形 (1) 速さ 立体図形 (1) 和と差 数の性質 平面図形 (2) 場合の数 立体図形 (2) 規則性 図形の移動 立体図形 (3) 夏期講習 (SB・SA) 割合と比 平面図形 (1) 速さ 立体図形 (1) 和と差 数の性質 平面図形 (2) 場合の数 立体図形 (2) 規則性 図形の移動 変化とグラフ											
家庭学習 ポイント	6年生の夏期講習はすべてが「これまでの総復習」であり、夏の間に受験算数の全範囲を一巡するような構成になっています。また授業スタイルも5年生までのように「授業で習う」という形ではなく「とにかくひとまず問題を解き、わかっているかどうか、できるかどうかを確認する」という演習型の授業になります。自分なりに「今できていること」「さらに補強して強くなりたい部分」を把握した上で「夏期講習で何を身につけるか」しっかり理解して取り組みたいですね。また「数日の授業+1日の休日」というサイクルで続いていきますから「忙殺」されないよう日々の復習のサイクルと、ターム間の休日の使い方をしっかり考えて過ごすことが大切です。とはいっても長い拘束時間と、8月上旬の数日の休日以外は切れ目なく続く講習会と「夏期集中特訓」により家庭学習でフォローできることについては過度な期待をせず「授業で最大限身につけて帰ってくる」ことを意識して取り組みましょう。そのためにはカリキュラムを見通し、必要であれば当該単元を予め学習してから授業に臨むなどの工夫が必要です。											
課題の把握と解決策	チェック1	夏期講習の復習サイクルは順調に「まわって」いますか？					チェック					
	解決策	忙殺されているようだと感じるなら、日々の復習と休日の使い方を見直してみましょう					<input type="checkbox"/>					
	チェック2	夏期講習の全学習単元について、自分の「得意・不得意」を意識できていますか？					チェック					
	解決策	上記をもとに「夏期講習で何を学ぶのか」を意識して授業に臨むようにしましょう					<input type="checkbox"/>					
	チェック3	散歩や体操など「ちょっとした息抜き」が上手にできていますか？					チェック					
	解決策	塾の長い拘束時間と過程でやるべきことの多さから、息が詰まるのを回避する工夫を					<input type="checkbox"/>					
	チェック4	計算など「ルーティン」学習は夏休み中も続けていますか？					チェック					
	解決策	よい習慣は夏休み中も続けることをおすすめします					<input type="checkbox"/>					
	チェック5	夏期講習テキストのそれぞれの問題について「どれを習得すべきか」明確ですか？					チェック					
	解決策	特に「間違ったけど解説を聞いてわかった」問題を自力で解けるように、を意識しましょう					<input type="checkbox"/>					
早稲田アカデミー	6年											
	国語											
学習内容	夏期講習 (SS) 説明的文章①～⑥ 文学的文章①～⑥ 夏期講習 (SB・SA) 物語・小説 (1) / 主語・述語・修飾語/熟語の組み立て 物語・小説 (2) / 名詞・動詞/三字の熟語 説明文・論説文 (1) / 形容詞・形容動詞/四字の熟語 説明文・論説文 (2) / 副詞・連体詞・接続詞・感動詞/類義語 隨筆文 (1) / 助動詞/対義語 隨筆文 (2) / 助詞/和語 (1) 物語・小説 (3) / 漢字の部首・画数・筆順/和語 (2) 物語・小説 (4) / 接続関係/特別な読みの言葉 説明文・論説文 (3) / 表現技法/暦の知識 説明文・論説文 (4) / 敬語/故事成語 隨筆文 (3) / 手紙文の約束事/慣用句 詩・短歌・俳句/かなづかい・送りがな/ことわざ											
家庭学習 ポイント	夏期講習の授業では、入試問題に近いレベルの問題を使い、これまでに学習したすべての文種の読解問題に取り組んでいきます。それぞれの文種の読解のポイントを1つ1つ思い出しながら取り組みましょう。また夏期講習に加えて「夏期集中特訓」が5日間と、非常に日数も多く目まぐるしい毎日になります。「忙殺されている」と感じる場合は、ターム間の1日の休みに「次のタームでどう改善するのか」を振り返って取り組みましょう。またそろそろ、自分の志望校、受験校の国語の問題傾向がどうなのかを確認する機会をとりたいですね。夏期講習の学習内容のうち、自分がもっとも力を入れたいもの、身につけるべきものが何なのか、意識して講習会に取り組みましょう。また上記の視点で過去問を確認することで、併願校の見直しなどにつながるかもしれませんね（第一志望校が記述中心に対して、併願校の入試傾向が全く異なるなど、学習に口火がでやすくなかったなど）。											
課題の把握と解決策	チェック1	毎回の「テーマ」を意識して読解に取り組んでいますか？					チェック					
	解決策	文種によって使う解法知識を意識して取り組みましょう					<input type="checkbox"/>					
	チェック2	物語文、小説の読解では、情景を映像のように思い描きながら読んでいますか？					チェック					
	解決策	「映像化」という技法です。積極的に使ってみましょう					<input type="checkbox"/>					
	チェック3	説明文・論説文では事実と筆者の考えを区別して読んでいますか？					チェック					
	解決策	説明文・論説文の読解では「定番」の技術ですね					<input type="checkbox"/>					
	チェック4	語彙を増やすための努力は続けていますか？					チェック					
	解決策	語彙の学習は入試直前まで（入試当日も含める）くらいの意識で続けましょう					<input type="checkbox"/>					
	チェック5	夏期講習の学習サイクルに「忙殺」を感じていませんか？					チェック					
	解決策	ターム間の休日に振り返りと検討の時間を設けましょう					<input type="checkbox"/>					

早稲田アカデミー	6年						
	理科						
学習内容	夏期講習 生物 (1) ~ (4) 地学 (1) ~ (4) 物理 (1) ~ (4) 化学 (1) ~ (4)						
家庭学習 ポイント	1回の授業で1分野を総復習し完成させる、という膨大な内容のカリキュラムが組まれた夏期講習です。「授業で学ぶ」という姿勢ではうまくまわっていきません。授業では「できていることとそうでないことの確認、検証」を行い、「できていないこと」を授業の解説+家庭学習で補っていくというサイクルになりますが、夏期講習ではカリキュラムの進行が慌ただしい（ふだんは1週間で1単元進むのが、夏期講習では1日1単元）ため家庭学習のリズムを「忙殺状態」にならないよう気をつけたいところです。あらかじめ学習内容について「自分がどのくらい習熟しているか」を考え、上記の流れに乗ることがおぼつかないと考えられる単元に関しては、これまでのテキストなどで「予習」してから授業に臨むなど、工夫をしましょう。特に生物や地学分野の知識事項に関しては、不足していると問題が解けません。せっかくの「演習授業」の効果が半減しますから、授業前に当該単元の知識事項だけでも「4科のまとめ」などで学習してから臨むなどしたいですね。						
課題の把握 と解決 策	チェック1	次の授業で扱う単元について、自分の力がどれくらいあるかを正確に判断できていますか？	チェック				
	解決策	力が足りないなら、ある程度「予習」で力をつけて授業に臨むようにしましょう	<input type="checkbox"/>				
	チェック2	夏期講習で特に力を入れたい単元、身につけたい分野がはっきりしていますか？	チェック				
	解決策	今の自分の力を知ることが「演習授業」のメリットを享受することにつながります	<input type="checkbox"/>				
	チェック3	授業をうけてもなお「苦手」のままの単元について対策を立てていますか？	チェック				
	解決策	さまざまな工夫をして準備し授業をうけてなお苦手なら、個別に習うのが最短の解決法です	<input type="checkbox"/>				
	チェック4	第一志望校の過去問を実際に見たこと、解いたことがありますか？	チェック				
	解決策	「志望校で求められること」を理解した上で夏期講習～後期の志望校別特訓に臨みましょう	<input type="checkbox"/>				
	チェック5	知識分野の学習はコツコツ続けていますか？	チェック				
	解決策	他教科同様「ルーティン」の学習は夏休み中も休まず続けましょう	<input type="checkbox"/>				
早稲田アカデミー	6年						
	社会						
学習内容	夏期講習 地理 (1) 国土と地図 歴史 (1) 政治史 公民 (1) 憲法と三権 地理 (2) 農林水産業 歴史 (2) 外交史 公民 (2) 国際社会 地理 (3) 工業・資源・環境 歴史 (3) 社会・経済史 地理 (4) 交通・貿易 歴史 (4) 文化・人物史						
家庭学習 ポイント	他教科の例にもれず、社会も夏期講習ですべての分野の復習を行います。授業が後期の志望校別特訓などと同じ「演習型」になるのも、他教科同様です。社会は特に問題を解くバックボーンになる知識があるかどうかで、問題演習の効果が倍増も半減もします。基本的な知識があやふやなお子さんは、少なくとも一問一答レベルの知識をつけた上で（塾でも指示や小テストなどがあるかと思いますが）毎回の授業に臨むことをおすすめします。他教科同様ですが、あまりのハードスケジュールに「こなすだけ」になってしまわないよう、ターム間の休日に振り返りの機会を持つようにしましょう。地理・歴史・公民分野のうち、明らかに弱点となっている分野があるなら、講習会の授業前や授業後に個別指導や家庭教師のテコ入れを併用するのも、1つの方法です。						
課題の把握 と解決 策	チェック1	次の授業で扱う単元について、自分の力がどれくらいあるかを正確に判断できていますか？	チェック				
	解決策	知識が足りないと感じるなら、あらかじめ「4科のまとめ」などで補充して臨みましょう	<input type="checkbox"/>				
	チェック2	社会科の全分野について自分の「できていること」「できていないこと」を把握していますか？	チェック				
	解決策	上記を把握することで「夏期講習で何を身につけるか」が決まります	<input type="checkbox"/>				
	チェック3	地理・歴史・公民分野のうち自分の「得意」「不得意」はわかっていますか？	チェック				
	解決策	どうしても苦手が解決しない場合「個別に習う」という手段も検討しましょう	<input type="checkbox"/>				
	チェック4	夏期講習の学習サイクルが「こなすだけ」になっていると感じませんか？	チェック				
	解決策	ターム間の休日に、こまめに振り返りの機会をとることが大切です	<input type="checkbox"/>				
	チェック5	平素からコツコツと知識の学習はできていますか？	チェック				
	解決策	夏は塾に「強制」されますが、以後もつねに続けていきましょう	<input type="checkbox"/>				